

関東部会 市民公開講座

日時：2006年9月29日(金)17:00～19:00

会場：高崎シティギャラリー

高崎市庁舎会議室

主催：群馬大学大学院医学系研究科 小濱一弘

第115回日本薬理学会関東部会と第34回薬物活性シンポジウムの合同会議の最終日に、同じ会場を使って、高崎市民を中心に案内を出し、集まっていた。2会場で、1時間ずつ2つの講義をしていただく予定であったが、会場を誤った方が多く、1会場で2つのテーマを聴いてもらうことになった。参加者は大変熱心で、夜遅くまでメモを取っておられた。群馬大学医学部キャンパスは前橋にあり、新幹線高崎駅より更に4つ目が最寄駅ではあるが、近年高崎・前橋両市は一体化しつつある。高崎・前橋地区は地方都市の例に漏れず、高齢化が進み、老人の在宅ケアの問題が深刻になりつつあり、「在宅ケアの実践」の講義は有益な情報をもたらされたと思われる。ガンの早期発見も市民にとっては知りたいところである。特に、高崎市には群馬大学と連携してPET（陽電子放出断層撮影）装置を持つ民間病院が出来、大学がこの方面で地元サービスが可能となったことをアピールした。もうすぐ大学に建設される重粒子線治療装置と併用すれば、がんも切らずに治る時代になるかもしれない。具体的な内容は右の通りである。

【研究室訪問】



昼の人間



夜の人間

講座1：在宅ケアの実践～本人と家族ができること～
松沼記代先生（高崎健康福祉大学健康福祉学部）

1. 認知症・寝たきりは生活習慣病？
 - 1) デイサービスの利用者や家族から見えること
 - 2) 認知症・寝たきりの要因
 - ・「趣味があればボケない」は嘘、ボケないための趣味とは？
 - ・自分の生活を振り返る
2. 欧米の在宅ケア
 - 1) カナダやニュージーランドの市民の例
 - 2) 福祉は与えられるだけでなく、造り上げて行くもの。
3. 在宅ケアの心得 ～ICFの原則を家族で生かす～
 - 1) 自分で出来ることは自分です。家族は熱いハートとクールな頭で接する。
 - 2) ケアが必要になっても、出来ることを見つける。家族も本人が出来ることを一緒に探し、出来たときは共に喜ぶ。
 - 3) 人の役に立つことを探す。家族は本人の存在やしてくれたことへの肯定と感謝を言動で示す。
 - 4) 何事にも感謝し、ケアされ上手になる。家族は、「ありがとう」の一言で癒される。

講座2：ガンの新しい早期診断法

真木俊次先生（医療法人 真木会）

1. PETでどこまで癌がわかるか

がん治療には何よりも早期発見することが重要だと言われています。この早期発見に有効とされるPET検査を紹介します。PETは、全身のがんの検索を高い精度で行うことの出来る最先端医療機器。この機器による検査をPET検査といい、1cm前後の小さながんを見つけることができます。また、苦痛を伴わず一度に全身のスクリーニングが出来ることも特徴の一つです。
2. 総合画像診断の重要性

しかし、PET検査といえども限界があります。子宮頸部、膀胱、腎臓、肝臓、胃などは発見がしにくいとされています。そこで重要となるのがPET検査に内視鏡検査、MRI検査、マンモグラフィ検査、超音波検査等を組み合わせた総合画像診断です。
3. いかに治療に結びつけるか

がんは発見されたときの程度により治療方法が違ってきます。進行がんでは開腹術、腹腔鏡下での手術等が必要となり、患者様の負担も大きくなります。早期がんであれば内視鏡下での手術も可能となり術後の回復も早く患者様の負担は小さくて済みます。早期発見こそ治療の近道です。

（吉山伸司）